平成 28 年「北方領土の日」記念大会
記念講演「日露関係の現状と北方領土交渉の展望」
講師　斎藤　元秀　氏（元杏林大学教授）
日時　2016 年 2 月 6 日（土）13:30～
場所　ボルファートとやま

ただ今ご紹介にあずかりました、斎藤元秀と申します。今日は富山県に来て非常にうれしく思っています。富山県がとても好きだからです。一昨年「えとぴりか」が新湊に寄港した際に講演をさせていただき、中学生と一緒に北方領土問題を考えたり、おいしいカレーライスを食べたりしました。富山は風光明媚で素晴らしいところです。

今日はたくさんの方がおいでになっています。さきほど大学生の方が壇上でおっしゃっていたとおり、富山県は北方領土問題に非常に熱心です。本日、司会をされている大野久芳富山県議会議員とは、北方領土に羽田首相とご一緒に「ビザなし訪問」をした際に知り合いになりまして、古くから存じ上げております。今日は中学生や大学生が非常に優れた作文の発表や報告をなさって、さすが富山県と思いました。

北方領土問題について今日、既に様々な方がお話をされておりますので、北方領土の現状やプーチン大統領が北方領土問題についてどのように考えているか、さらに北方領土交渉の展望はどうかということに焦点をあてて、講演をさせていただきます。今年は安倍首相がロシアに行きそうですが、今後の日露関係の展望についても、言及したいと思います。

北方領土の現状

本日の「北方領土の日」記念大会開催に当たり、ピンク色のパンフレットを作ってくださいました。パンフレットの後ろのページに北方領土の地図が載っています。これを見てお分かりのとおり、北方領土というのは広く、ロシアが占拠しているからといって簡単に諦めるわけにはいかない日本固有の領土です。北方領土の一番近い島までは 3.7km ほどですから、北海道からとても近いところにあります。われわれは「北方領土」と呼んでいますが、ロシア人は「南クリル」あるいは「南クリル諸島」と呼んでいます。北方四島という名前を使いたがりません。

北方領土に今、人口がどのくらいいるか、謎です。なぜ謎かと申しますと、ロシア側が北方領土に何人住んでいるかしっかり発表していないからです。約 10 年前の人口統計をいまだに使っています。ロシア側は人口が増えていると言っておりますが、おそらくそんなに人口は増えていないのではないでしょうか。

なぜ増えていないのか。これにはいろいろな原因があります。北方四島、南クリルというのは、モスクワから離れています。ウラジオストクからも離れた辺境の地なのです。若者はあまり定着したがりません。プーチン政権になった 2000 年ごろから、国際市場での石油の値上がりによってロシア経済がだんだん潤ってきました。そのおかげで北方領土のインフラ、例えば道路や港湾、学校などが整備されるようになりました。埠頭も改修されました。ところが、大学がありません。ですから、頭の良い若者たちはウラジオストク、ハバロフスク、モスクワなどの都市で一生懸命勉強して将来に備えたがります。そのため、島では若者が増えないのです。島での物価が高いことも難点です

さらに、島では仕事があるようでありません。ギドロストロイという名前の水産加工会社があって、ここは不動産業も手掛けています。色丹と択捉に住む島民たちが雇用されていますが、ギドロストロイのほか、北方領土にはめぼしい企業がありません。

2010 年、択捉島に総合病院が新設されました。しかし、腕の良い医者が不足しており充実しているとはいえず、よく診てもらいたいときは樺太（サハリン）の州都ユジノサハリンスクの病院まで行かなければなりません。病状がひどい場合は、根室あるいはその周辺や札幌、東京などの病院で診てもらったりもしています。

「ビザなし交流」で北方領土に行かれた方もおられると思いますが、ロシア人の子どもたちは非常に可愛らしい。どうして可愛らしいかというと、ウクライナ系が多いからです。しかし、それはそれ、これはこれで、領土の返還はしっかりとロシア側に求めていかなければなりません。

北方領土問題とは何か

「北方領土は良いところですね」「温泉もありそうですね」「寿司ネタのカニなどが豊富そうですね」「日本人は住んでいますか」といった質問がよく聞かれます。先ほど大学生の方が説明して下さいました通り、1945 年 8 月に日本が戦争に負けて、2 年くらいは北方領土に日本人がいたのですが、その後はみんな追い出されてしまいました。記録によれば 1 人いたらしいのですが、他は日本に強制送還されてしまいました。北方領土からトイレがきちんと整備されていない不衛生な船に乗せられ、非常に苦労して樺太（サハリン）に移送され、そこから日本の引き揚げ船に乗って帰国したのです。

今日、日本人はどのようなときに北方領土に行けるのでしょうか、第一に、旧島民やその子孫などの方の場合は、お墓参りの時です。ただし、ロシアの当局の許可を取らなければいけません。昨年はロシアによる審査が非常に厳しく、書類の不備ではねつけられ、第一陣の北海道の墓参団は行けませんでした。もう一つ、日本人が北方領土に行けるのは、「ビザなし訪問」のときです。しかし、「ビザなし訪問」でも制限地域があり、訪問できる所があらかじめ決まっていて、指定された場所に行って見て帰ってくるだけです。人数制限もあります。北方領土はロシアに占領されていますから、日本の領土であるのに、非常に行きづらい。近年規制が強まり、ますます行きにくくなりました。日本はしっかり頑張らなければいけないと思います。

ご存知のように、北方四島の帰属問題が日本とロシアの間の障害、つまり、喉に「刺さった骨」になっていて、いまだに平和条約が結ばれていません。どちらの国のものか決まっていないという問題です。第二次世界大戦終結以来、ロシアが島を占領していますが、日本は認めていません。平和条約が結ばれなければ、帰属ははっきりしません。

ここに北方領土問題対策協会が作った観音開きのパンフレットがあります。「北方領土問題の経緯」というページをご覧ください。北方領土は一番北が択捉島で、国後島、色丹島、歯舞群島から成立しています。択捉島の北はウルップ島です。なぜ江戸時代末期の 1855 年にウルップ島と択捉島の間で日露の国境が決まったのでしょうか。ロシアとしては国境を決めざるを得なかったのです。当時沿海州からロシア領であったアラスカにロシア船が行く際、水や食糧などを補給するため、日本の港に立ち寄る必要がありました。また、帝

政ロシアは通商関係をひらいて日本に毛皮などを売りたいとも思っておりました。そのころ南部藩や津軽藩の藩兵が北方領土を守っていました。そのため、ロシアはウルップ島を南下して攻め込むことが出来なかったのです。

プチャーチン提督が来日して、長丁場の交渉の末、「日魯通好条約」が 1855 年の 2 月 7 日に結ばれました。プチャーチン提督は来航したとき、時のロシア皇帝から、ウルップから北の島はロシア領､南は日本領という形で交渉をまとめるように命じられておりました。この訓令に沿って日本側と交渉し、条約を結んで日本との間で国境を確定したのです。2 月 7 日というと明日ですね。「北方領土の日」で、大事な日です。みんなで盛り上げて北方領土返還の実現に向けて決意をあらたにするための日本にとって大切な日です。明日、安倍首相が日比谷公会堂で開催される大会にいらっしゃる予定です。

国境確定交渉にあたって、プチャーチン提督は日本に友好的でした。一歩先に日本に来航して開国を求めたペリー提督と異なり､和やかな雰囲気のうちに交渉が進められました。交渉は最初長崎で行われましたが、話がなかなかまとまらないので、伊豆半島の戸田（へだ）という小さな村に交渉の場が変わりました。交渉中、プチャーチン提督が乗ってきた船が嵐で大破するという事件が起きました。すると地元の村人たちは、言葉は分からなかったのですが、総出で助けに行って、ロシア人を救助し、ロシア側から感謝されました。このように胸にじんとくる話があります。

今日、日本とロシアの間には北方領土問題があって、ぎくしゃくしていますが、大ざっぱに言って幕末から日露戦争が始まる直前までは、日露関係は基本的に良好でした。あまり知られていませんが、日露戦争後軍事同盟を結んだ時期もありました。

わが国とロシアの関係がひどく悪くなったのは、第二次世界大戦の末期の 1945 年 8 月 9 日に長崎に原爆が落とされた後、スターリンが、千島列島や北方領土を占領しないとアメリカに取られてしまうと懸念して、まだ有効であった「日ソ中立条約」を破って対日参戦したことに由来します。ソ連軍は、満州と樺太を制圧し、さらに千島列島、北方四島に軍隊を進め、9 月 5 日までに制圧してしまいました。先ほど大学生の方がおっしゃっていましたが、日本人の感覚でしたら、相手国が白旗を揚げたらそこで停戦するのですが、スターリンはそういうことをしませんでした。チャンスがあったら領土を広げるという方針を堅持し、日本が 8 月 14 日に「ポツダム宣言」を受け入れて降伏を宣言し、9 月 2 日に東京湾に停泊した米国の軍艦ミズリー号上で降伏文書に調印したのちも、領土の拡大にひたすら努め、9 月 5 日までに北方四島を日本から奪い取ってしまいました。

2014 年春、ロシアは武力を背景にしてウクライナからクリミア半島を奪取しました。ロシアは時には条約や協定を無視した行動をとります。第二次世界大戦後に出現した欧州の国境は平和的に解決しなければいけないと謳った 1975 年の「ヘルシンキ宣言」などを無視して、ウクライナから領土を取ってしまうなど、なかなかしたたかです。ロシア人のなかには良い人がたくさんいるのですが、国家は別の論理で動いています。ロシアに我が国の固有の領土の北方領土が占領された状態が、残念ながら 70 年以上も続いています。

なぜロシアは北方領土を日本に返してくれないのでしょうか。いろいろ理由がありますが、第二次世界大戦に勝ったという意識が、相当大きいのです。戦争で勝利を収めて獲得した戦利品だから取って当たり前で、北方領土はロシアのものだという感覚です。この戦利品だという意識は、ロシア人の頭の中に焼き付いています。

北方領土周辺海域が豊かな漁場だということも、北方領土を返してくれない理由です。北方領土の周辺海域は、近年乱獲され漁獲高が減っていますが、それでも結構豊かな漁場です。たとえば、タラバガニがとれます。富山県のカニはとてもおいしいのですが、北方領土近海でとれるタラバガニも非常においしいです。また、サケやカラフトマス、ホタテ、昆布もとれます。こうしたことも北方領土を日本に返したくない理由です。

そのほかロシアにとって北方四島はどのような価値があるのでしょうか。ソ連軍が北方領土を占拠した理由は、太平洋への出口にある北方四島を押さえておこうということでした。ウラジオストクを拠点とするソ連太平洋艦隊が太平洋へ抜けるときの出口を確保しておくためでした。

近年、地球温暖化に伴い北極海の利用がしやすくなり、ロシアにとって北方領土の価値が上がりました。北極海航路というのは、アジアとヨーロッパを結ぶ北極海の物流ルートのことをいいます。アジアから欧州に船で貨物を運ぶ場合、北極海航路の方がスエズ運河を通る航路よりも時間がかからなく便利だと強調し、ロシアは北極海航路を日本、中国、韓国などに盛んに売り込んでいます。先日、東京で開催された講演会で、イギリス人の若い学者が北方領土は北極海航路の玄関に位置する、と指摘をしておりました。「ゲートウェイ」と呼んでいましたが、まさに北極海航路の入り口に北方四島があります。

近年ロシアにとって北方領土の戦略的な価値、経済的な価値が上がっています。ですから、日本もそういう現実を踏まえて北方領土交渉をしっかり行わなければいけません。

プーチン流北方領土問題解決法「ヒキワケ」とは

ところで、北方四島の価値が上がっている中、プーチン大統領はどのように北方領土問題を解決したいと思っているのでしょうか。柔道家のプーチン大統領は、柔道用語を使って「ヒキワケ」で解決したいと述べたことがあります。「ヒキワケ」というのは、日本人の感覚で言えば、五分五分です。

しかし、プーチン大統領が考えている「ヒキワケ」は、日本人の考えている「ヒキワケ」とは全く違います。プーチン大統領は平和条約締結後日本に引き渡すのは北方四島のうちせいぜい歯舞・色丹の小さな二島だけだと考えているからです。プーチンが言っている「ヒキワケ」は歯舞と色丹返還だけでの決着ですから、返還されるのは北方領土の総面積のわずか 7%程度にとどまります。プーチン大統領は、国後や択捉といった大きい島は、ロシアのものだと主張しています。さらに、歯舞と色丹の二島だけの返還でも日本に対してシベリアやロシア極東で経済協力をするよう代償を求めているのです。

最近のプーチン大統領の動きを見ておりますと、歯舞、色丹の二島すら日本に返したくないようです。平和条約締結後、歯舞・色丹を日本に引き渡すというのは、1956 年 10 月に調印した「日ソ共同宣言」に明記されています。国後と択捉につきましては、継続審議するというのが、1956 年 10 月の日ソ国交正常化にあたって発表された「松本・グロムイコ書簡」から読み取ることが出来ます。

ところが、ウクライナ危機後、プーチン大統領は「日ソ共同宣言」を無視するような発言をしております。ラブロフ外務大臣も同様です。ロシアが最近強調しているのは、日本とロシアの間では平和条約は結ばれていないけれども、北方領土問題は解決済みだという手前勝手な考えです。

昨年秋にモスクワに参り、ロシアの著名な日露関係の学者と北方領土問題について意見交換を致しました。「ロシア側は領土問題が解決したと言っているけれども、根拠は非常に薄弱だ。戦後日露両国が結んだ外交文書は全部有効だとしながら、北方領土問題は解決済みというのは、おかしい」とストレートに申しますと、あちらはきちんと反論をしないのです。

しかし、ロシアは、北方領土問題が未解決だということを以前は認めておりました。1993年にエリツィン大統領が日本に来て「東京宣言」を出しました。当時、ロシアは日本から経済援助が欲しかったので、北方四島の帰属の問題を解決して「法と正義の原則」に基づいて早期に平和条約を結ぶとした「東京宣言」に、エリツィン大統領は署名したのです。2000 年にプーチンが大統領に就任しました。翌年 2001 年に森首相とプーチン大統領がシベリアのイルクーツクというところで首脳会談を行い「イルクーツク声明」を発表しました。この声明において、プーチン大統領は「東京宣言」に則り、四島の帰属の問題を解決して平和条約を締結することに同意しました。ところが、ロシアは北方領土を返したくないものですから、いろいろな理屈をつけて領土問題と平和条約の締結は駄目だと言っております。

ロシアが変なことを言ったら、日本はしっかりと反論しなければいけません。ロシア語や英語で「ロシアの言っていることはおかしい」ということを口頭やインターネットなどできちんと反論していかないと、ロシア側は日本がロシアの主張を認めたのではないかと誤解してしまいます。ですから、言うべきことはしっかり言って、反論すべきことには反論しなければいけないのです。日露の友好関係が大事なことは言うまでもありませんが、北方領土問題にしっかり取り組んでいかないといけません。

日露関係の現段階

ここまでが序論で、ここから本論に入ります。現在の日露関係がどうなっているかということです。安倍晋三氏はこれまで 2 回政権を手中にしています。第 1 回目の政権の時には日露関係は全く動きませんでした。安倍首相の父親の安倍晋太郎氏は外務大臣のとき、何とかゴルバチョフを相手に日ソ関係を前進させたいと頑張ったのですが、途中で病に倒れてしまいました。そのため、ご子息の安倍首相は、何とか自分の手によって北方領土問題を解決したいと強く思っているわけです。政権を再び握った後の 2013 年 4 月に、安倍首相はモスクワに行ってプーチン大統領と首脳会談をしました。

これは約 10 年ぶりの日本の首相の公式訪問でした。以前に麻生首相や福田首相もロシアに行っておりますが、非公式訪問であったこともあり、共同声明は発表されませんでした。2013 年に訪露した時、安倍首相はロシア側を説得し共同声明を発表して、ロシアと日本の関係を前進させようとしました。

プーチン大統領の自伝には、昔はぐれて不良だった、けんかが強かった、国家保安委員会、通称 KGB に採用され頑張ったということが書かれています。なかなか頭脳明晰の政治家です。安倍首相は粘ったのですが、プーチン大統領は北方領土問題に関しては頑としてロシアの立場を譲りませんでした。共同声明を出すことには合意したのですが、領土問題が存在する点を共同声明に明記することは認めませんでした。

それでも、安倍首相がモスクワに行ってから、日露関係は良くなりました。2014 年 2 月、

安倍首相はプーチン大統領との直接対話を活発に続けなければ北方領土問題は前進しないと考えて、日比谷公園での北方領土返還要求全国大会の後、すぐに政府専用機でロシアに飛んで、予定を前倒しにして、プーチンの願いを聞き入れてソチオリンピックの開会式に間に合わせました。そのおかげでプーチン大統領との信頼関係が高まりました。

以前、秋田県知事がロシアとの関係が大事だと考えて、プーチン大統領に秋田犬の子犬「ユメ」を贈りました。子犬のときはかわいかったので、プーチン大統領も気に入って、「ユメ」に頬を寄せたツーショット写真をインターネットで世界に発信したりしました。欧米の指導者がソチ冬季オリンピックの開会式への出席を拒否した中で、安倍首相が 2014 年 2 月にソチオリンピックの開会式に間に合うよう特別専用機で駆けつけたとき、プーチン大統領はとても感謝して、安倍首相をソチ郊外の公邸で迎えました。「ユメ」も玄関口で安倍首相をお迎えしました。その際、プーチン大統領が安倍首相に何と言ったかと申しますと、「この犬はたまにかじるのだ」と。冗談ですが、北方領土を返さないから「ユメ」も怒っているのでしょう。

2013 年に第二次安倍政権が発足してから改善しましたが、2014 年春に上向きだった日露関係に水を差すような大きな出来事が起きました。ロシアによるクリミア併合です。クリミアにある軍港セバストポリを半永久的に確保しておくため、プーチン大統領は、電光石火の勢いで特殊部隊を動員してウクライナ領のクリミアを併合してしまいました。これには米国のオバマ大統領もドイツのメルケル首相も驚きました。オバマ大統領が音頭を取って、G8 からロシアを追い出したうえでロシアを抜いた G7 で話し合って、主要国が団結して対露経済制裁をするということになりました。欧州諸国はロシアから天然ガスを大量に輸入していますが、クリミア併合に抗議して、対露経済制裁を発動しました。

対露経済制裁の一環として、オバマ大統領はロシアにあらたに資金を貸さない、また技術協力もしないという方針を打ち出しました。天然ガスや原油などの天然エネルギー資源の新規掘削には、アメリカは協力しないという方針を発表したのです。ロシアには北極圏の天然資源の掘削に不可欠な掘削技術がありません。ロシアの核兵器の数は世界で 2 番目ですが、ロシアには極寒の地での天然ガスの掘削の技術はないのです。寒冷地で石油や天然ガスを掘れる技術を持っているのは米国やノルウエーといわれています。あとは日本です。ロシアは通常の土地だったら掘削できますが、北極圏のような極寒の地ではノルウエー、アメリカ、日本などが技術協力をしなければ掘削できません。経済制裁を科せられ、さらに国際市場において原油の値段が暴落し、プーチン大統領は非常に困っています。

安倍首相はオバマ大統領が率いる米国との友好関係の維持が大事と考えています。いざという時には、日本は「日米安全保障条約」で守ってもらわなければなりません。安倍首相は、オバマ大統領の意見を無視したら日米関係にひびが入ってまずいことになると判断し、米国に同調して対露経済制裁に踏み切りました。ただし、日本が行ったのは「真空切り」です。空を切る。つまり切ったという素振りをするというものでした。日本の対露制裁とは、具体的には、ロシア政府関係者が日本に持っている資産の凍結などです。ただ、実際にはロシア政府関係者は日本に資産を持っておりませんので、形だけの経済制裁ということになります。

昨年秋にモスクワに行ってロシアの外務省高官や一流の日露関係専門の学者と協議しました。彼らは日本がアメリカに付き合って対露経済制裁をしたことを熟知しておりました。

そういった事情は知っているのですが、昨年の春あたりからロシアは日本に対して厳しい措置を実施するようになりました。

まず、サケやマスは私の好物なのですが、オホーツク海のロシアの排他的経済水域において日本漁船によるサケ・マスの流し網漁法を全面的に禁止しました。流し網漁法というのは、船尾に網を付けてサケやマスをとるというやり方です。この漁法が今年の 1 月から全面禁止になりました。日本にはロシア産だけではなく、ノルウエー産やカナダ産などいろいろな産地のものが入っておりますから致命傷にはなりませんが、北海道の水産加工会社は、サケやマスが入ってこなくなって、困窮しています。

また、ロシアは、昨年の春、北海道からの墓参団を書類不備の理由で受け付けませんでした。歯舞群島をロシアの名前で申請文書に書いていなかったからだとされています。それから、昨年 8 月にはメドヴェージェフ首相が択捉島に行って、「他のロシア政府の閣僚たちにも北方領土をどんどん訪れて欲しい」と述べ、日本に向けて挑発的な発言を致しました。

ロシアは北方領土の軍事的価値が上がっているということで、軍人の住宅など軍事関連施設の整備を進めています。それから、先ほど申し上げましたように、北方領土問題は解決済みで平和条約と北方領土問題は別なのだと強弁しています。つまり平和条約を締結しても北方領土は返還しないと主張しているのです。近年ロシアは、一般に「敵国条項」と通常呼ばれている国連憲章第 107 条を再び持ち出すようになりました。ロシアは「敵国条項」を盾にして、1945 年 2 月の「ヤルタ協定」は、密約なのですが、有効な合意で日本は第二次世界大戦で敵だったのだのだから、平和条約を結ばなくてもロシア領として確定しているのだと言っています。

ところで、ロシアは、北方領土は自国の領土であると強調しながら、その一方で日本に経済協力を求めるという矛盾した行動を取っています。経済協力の対象としてロシアの念頭にあるものは、シベリア開発、ロシア極東の道路や港湾などのインフラ整備その他多々あります。特にロシアが力を入れているのが、サハリンと北海道を結ぶ天然ガスのパイプラインの建設です。日本が資金を提供してパイプラインを建設し、完成の暁には天然ガスを日本に売りたいと言っています。日本が中東などから輸入するよりももっと安い値段でロシアは質の良い天然ガスを日本に輸出できるので、サハリンと北海道を結ぶパイプラインをつくるよう日本に働きかけています。

さらに、オホーツク海での日本漁船にサケ・マス流し網漁を禁止しながら、他方でロシア人に漁業を教えるように言ってきています。ロシア人は魚をとるのが下手だから、日本人に教えて欲しいと言うのです。第二次世界大戦が終結した時、北方領土に入ってきたロシア人は魚のとりかたなどを日本人島民から習っています。日本人から習った漁獲法や養殖の仕方はもう古くなってしまったということで、ロシアはオホーツク海での日本のサケとマスの流し網漁法を全面禁止にしたのですけど、ロシアに協力し、技術指導をするよう要請しています。

北方領土交渉の展望と課題

さて、北方領土交渉の展望や日本にはどういう課題があるかということについてお話したいと思います。ご存知のように、今年の 5 月下旬に G7 伊勢志摩サミットがあります。

アメリカなどのいろいろな国から指導者が来ますが、ロシアはクリミアを併合して G8 から追い出されてしまったので、プーチン大統領は参加できません。その一方で、ウクライナ危機発生のため、プーチン大統領の来日が延び延びになっています。本来ですとプーチン大統領が日露首脳会談開催のため今度は日本に来る番なのですが、北方領土問題解決の糸口を見つけるため、安倍首相は G7 伊勢志摩サミット前に自分から出向いて訪露するとロシア側に告げました。プーチン大統領は安倍首相の訪露を歓迎しています。

今日の新聞にロシア側の発表として、近く日露の非公式首脳会談を行うという記事が載っていました。5 月末に伊勢志摩サミットがありますから、4 月下旬から 5 月上旬にかけて訪露するということになるかもしれません。3 月に安倍首相はアメリカに行き、4 月下旬、ゴールデンウィークにヨーロッパに参ります。そのおり、ロシアの地方で日露非公式首脳会談を開催しようという話になっているようです。非公式会談の場合、共同声明を出す必要が必ずしもありませんから、リラックスして協議できます。一方、オバマ大統領はウクライナ問題があるのにどうして日本がロシアに接近するのかと厳しい目で見ております。こうした事情から、オバマ大統領の了解を事前に取るため、安倍首相は、ロシアに行く前にアメリカに行ってオバマ大統領と協議して、その後、プーチン大統領との首脳会談に臨みたいと思っています。

プーチン大統領は安倍首相と会って何が欲しいのでしょうか。ずばり日本からの経済協力の取り付けです。先ほど申し上げましたように、クリミア併合後、ロシアは経済制裁をされていますが、プーチン大統領はシベリア開発の推進やサハリンと北海道を結ぶパイプライン建設のため、いろいろな協力を日本から獲得したいと切望しています。中国はバブル経済が減速してシベリア産の天然ガスをなかなか買ってくれませんから、ロシアは日本に天然ガスを売りたがってもいます。

他方、プーチン大統領と会談を開催することで、安倍首相は何を望んでいるのでしょうか。プーチン大統領と会って北方領土問題についてしっかり話すということが一つです。また、日露が協力して台頭する中国にどのように対処するかも、主なテーマの一つです。さらに安倍首相は北朝鮮のミサイル実験や核実験問題についても協議をして、ロシアから北朝鮮に圧力をかけてもらいたいとも思っています。イランとサウジアラビアの仲が悪いので、プーチン大統領に両国の紛争の仲裁をして欲しいとも考えています

プーチン大統領は巧妙なので、あまり前のめりになって対露接近してしまいますと、下手をすると一本取られてしまいますので、注意が肝心です。ロシアと良い関係を築きながら北方領土問題を協議し、返還に結び付けるよう話し合うというのは、とても大変なことです。一度戦争で負けて取られたものを外交交渉で取り戻すというのは、沖縄返還のように前例がないわけではありませんが、大変時間がかかります。

プーチン大統領は日本が経済協力するなら、いつでも専用機を飛ばして来日すると言っています。プーチン大統領が日本に来ても、おそらくなかなか北方領土交渉は進展しないでしょう。クリミア併合後、ロシアでは愛国心が高揚し、プーチン大統領を拘束している面があります。ウクライナで領土を取り戻したのに今度は日本に領土をあげるとなると、ロシアの国民からかなり反発を招く恐れがあります。

プーチン大統領は、いつごろ日本に来るのでしょうか。オバマが任期終了で大統領職を辞めるのが、来年の 1 月です。オバマ大統領は日露の接近を嫌がっていますから、1 月にアメリカの大統領が替わって、潮目が変化すれば、プーチン大統領来日実現の可能性が開けてくるでしょう。

こうした情勢の中で、日本政府はどのように対露外交を進めようとしているのでしょうか。原田前駐露大使がロシアについてよくご存じだということで、先般対露外交担当の政府代表に任命されました。サミットの準備で日本政府は忙しいので、日露関係をこれからどう動かしていくか、北方領土問題をどのように解決するかということは原田大使に一任しているようです。

ロシアと交渉して領土問題を動かすためには、やはり「切り札」を握っていなければいけません。なにが「切り札」になるのかしっかり考え、対露戦略を構築し、焦らず急がず粘り強く頭を使って、取り組んで行く必要があります。今年、仮題ですが『ロシアの対日政策－プチャーチンからプーチンまで』という研究書を出版する予定です。ロシアの対日政策を原点である「日魯通好条約」締結から今日まで体系的に分析した本は、世界的にありません。ご一読いただければ幸いです。

皆さまの熱心なご様子に励まされほぼ時間通りに講演が進みました。本日はどうも有難うございました。

（以上）